彼女

風羽璃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
彼女

【Ｎコード】
Ｎ３９０２Ｐ

【作者名】
風羽璃

【あらすじ】
彼女はただ立っていた。

この地球の果てを見つめて。

僕はそんな彼女に

恋をした。

最悪の出会いと最高の初恋（前書き）

彼女は透き通ったか細い声で言った。

『神様はいないんだ』と。

彼女の瞳は絶望で満たされていた。

最悪の出会いと最高の初恋

彼女は言った。

『神様はいないんだ』

と。

『自分がバカだった』

と。

彼女はまるで
心まで凍って
しまったかのように

ただ静かに
遠くを見つめていた。

そんな彼女に
かける言葉なんて
この世にないのだろう。

そして僕は
彼女の隣でずっと
立ち尽くしていた。

彼女が

見つめている
だろうと思う方向を
僕もただ
見つめていた。

彼女は
再び口を開いた。

『たとえこの身が
朽ち果てようとも

自身が燃え尽きた灰に
なろうとも

私はただ
歩き続けよう』
と。

僕には
その意味が
わからなかった。

僕は言う。

『なぜ？
なぜ1人で
歩き続けるんだ？』

少し間をおいて
彼女が答える。

『大切な人を
傷つけないようにさ』

彼女は微笑んでいた。

彼女は涙を流していた。

彼女は
哀しんでいた。

僕は
その時
知った。

彼女は
愛を知らないことに。

ずっとずっと
ひとりぼっち。

彼女には
親がいない。

彼女は
自分が生きていることで
誰かを傷つけるのが
いやなのだ。

そして恐怖だった。

ずっと昔に
大切な人を
傷つけたことが
あるのだ。

親と言う
大切な人を。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3902p/

彼女

2010年12月9日04時32分発行